

■コラム2 化石の宝庫 南相馬

■ 3億年の歴史をたどる

南相馬市は、古くは約3億8000万年前から約12万年前にいたるまで、
こせいだい古生代～ちゅうせいだい中生代～しんせいだい新生代すべての地質年代の地層が分布しています。また、
さんようちゅう相馬古生層の古生代の三葉虫、相馬中村層群の中生代の恐竜（足跡）・アンモナイト、新生代の大年寺層からクジラをはじめとする哺乳類などが見つかっています。このように、南相馬市は各時代を代表する化石が産出し、ひとつのまちの中ですべての地質年代の化石がある大変恵まれた地域です。

■新種が眠る南相馬の大地

化石は、はるか昔の生き物たちが、偶然にも腐敗・分解をまぬがれて残ったもので、発掘されることにより、私たちが想像できないような太古の様子を教えてください。いわば化石は、地球の歴史の一端を物語るタイムカプセルです。南相馬では、その数億年にもわたる地球の歴史を、身近に観察することができます。近年は地元内外の研究者によって、新種わんそくゐの腕足類、ソテツ類、アンモナイト、カニ、二枚貝などが発見・報告されており、「化石の宝庫」として注目をあびています。



南相馬市の化石産出地



新種アンモナイト 白亜紀最前期 小山田層



新種のソテツのなかま ジュラ紀後期 枳窪層